



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/30 (月)	+ 500	+ 10,100	+ 10,600	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	気候変動対応オペ ▲ 20,500 CP等買入 ▲ 1,000	気候変動対応オペ + 28,300 CP等買入 + 4,000	
1/31 (火)	+ 900	+ 900	+ 1,800				日：日銀金融政策決定会合議事録等 (2012年7月-12月開催分) 鉱工業生産 (12月) 米：FOMC 欧：ユーロ圏GDP(4Q)
2/1 (水)	+ 1,000	▲ 24,000	▲ 23,000	国債発行・償還 (2年)			米：FOMC、FRB議長記者会見 欧：ユーロ圏CPI (1月)
2/2 (木)	+ 1,000	▲ 17,000	▲ 16,000	法人税上げ			日：マネタリーベース (1月) 米：新規失業保険申請件数 (1月28日終了週) 欧：ECB政策金利、総裁記者会見
2/3 (金)	▲ 2,000	▲ 27,000	▲ 29,000	国債発行 (10年)			米：雇用統計 (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初513兆2,600億円から始まった。25日は国庫短期証券償還を事由に517兆8,700億円、26日には各種財政の支払いもあり521兆2,100億円まで増加し、週末27日には520兆2,800億円(速報)まで減少し越週した。無担保コールON物金利は週初、△0.012%からスタートした。その後週を通してビッドサイドの調達意欲は底堅く推移し、27日の無担保コールON物金利(速報)は△0.014%にて越週した。ターム物は1,2W物を中心に△0.020%~△0.008%程度の水準で出合いが見られた。来週の予定は、国内では30日に日本銀行金融政策決定会合議事録等(2012年7月-12月開催分)及び鉱工業生産(1月分)の公表などがあり、海外では米FOMC(1月31日から2月1日まで)、雇用統計(1月)、やユーロ圏GDP(4Q)、ユーロ圏CPI(1月) ECB政策金利、総裁記者会見などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は週初▲0.100%近辺から始まり、週を通して▲0.100%~▲0.09%で多く取引された。短国3mの入札日となる27日の取引でも水準に変化は見られなかった。SC取引は2年435~444回債、5年146~155回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.02

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆3,000億円で、週間償還額(約2兆6,000億円)と下回った。発行市場は、月末の大量発行と機械や化学、石油製品等の複数の業態で大型案件が見られたことから、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の28兆677億円から26日時点で28兆3,234億円と増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。一方で、発行残高が積みあがっている銘柄や3月末を超える発行等を中心にややレートの上昇も見られた。25日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0.005% (前回0.002%)、平均落札レート0.029% (前回0.010%)と按分・平均落札レート共に前回比で上昇した。

来週の週間償還額は、約4,300億円となっている。発行市場は、5・10日発行が見込まれるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

1月27日の3M(1135回債)の入札は、最高落札利回り△0.1414% (前回債△0.1443%)、平均落札利回り△0.1548% (前回債△0.1591%)となった。来週は2月3日に3Mの入札が予定されている。